

背景



現状分析

地域とのつながりへの意識

- 「望ましい地域とのつきあいの程度」は「挨拶をする程度」の割合が多い
- アフターコロナにおいては多くの人が「人と会うことの大切さを実感した」と変化
- 「社会のために役立ちたい」という意識 6～7割と高い
- 「地域幸福度」を向上させるためには自己効力感を高めることが重要

地域コミュニティの現状

自治会や町内会の抱える課題

- 加入率低下、参加者数減少
- 担い手不足、高齢化
- 求められる対応の多様化・増加

地方自治体の実態

地方自治体の抱える課題

- 財政見直しによる職員数減少
- 自治体の役割多様化
- 行政需要は将来拡大見込み
- 採用難

より多くの人が地域社会において何らかの役割を發揮できる環境整備により人々の自己効力感が高まるのではないかと

若者・子どもの社会参加が欠かせない現代にマッチしたコミュニティのあり方が求められている

まちづくりを推進するために、デジタルを活用した業務効率化及び住民の積極的な参加が必須である

提言

提言1 「オンライン」まちづくりプラットフォームの設定

住民による積極的な発案・議論を促し投票で施策を決定する場

提言2 「こども組織」「おとな組織」「とりめ組織」の設定

プラットフォーム内に3つの組織を設立それぞれ役割実行により実現可能性を高める

オンラインまちづくりプラットフォーム TkREE (ツクリー)

人と人とのつながりをつくり、自分たちのアイデアでまちをつくり、その地域の新たな魅力をつくる。

そんな思いがその地域に根差し、一本の大きな木 (TREE) となり、木が育つようにまちが育っていく。その起点となるのが「TkREE」

TkREE運用におけるポイント

①自治体職員の負担減少 ②こどもの意見の実現 ③汎用性のある独自予算事前確保 ④住民の参加しやすさ

具体的な運用イメージ

STEP1	STEP2	STEP3	STEP4
各TkREEメンバーを選出	自分たちのやりたいことから発案	子ども発案の実行に向けた精査	自治体職員の視点からチェック
TkREEは小学校区ごとに設立	オン・オフライン併用で議論し発案	オン・オフライン併用で議論し、具体化に向けたブラッシュアップ&アドバイス	実現性チェック、予算規模チェック
STEP5	STEP6	STEP7	STEP8
発案内容の登録と自治体承認	TkREE案の住民投票	スムーズな事業執行	執行内容の発表参加者への賞賛
オンラインで簡単な登録・承認方法	スマホなどを使ったオンライン簡単投票	事前に確保されたTkREE予算で執行	感謝状授与、内申書反映など

めざす姿と実現に向けた課題

めざす姿

住民参加型のまちづくりによる地域活動活性化 (地域への愛着や誇り復活)

実現に向けた課題

住民の積極参加

意見が反映される実感

自治体職員の負担軽減

マネジメントを担う人材確保

行政側の関心度向上運営の継続

もたらす影響 (メリット) と将来展望

自治体にとって	子どもTkREEにとって	おとなTkREEにとって	その他の住民にとって
<ul style="list-style-type: none"> 多様な住民の声反映 地域コミュニティの活性化、共助の促進 職員の業務負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 実現・成功体験による自己効力感の向上 体験による能力開発 子ども同士のつながり 	<ul style="list-style-type: none"> 代理経験による自己効力感向上 社会貢献欲の満足 ゆるやかなつながり 	<ul style="list-style-type: none"> 気軽にまちづくりに参加ができる 地域への帰属意識 税金使途への納得感

TkREEの将来可能性

住民参加型のまちづくり → 住民主体のまちづくりへ

オンラインまちづくりコミュニケーションプラットフォームへの進化

地域の住民の困りごとを、住民自ら協力しながら解決し携わった子どもが大人になり、活動が地域に根付いていく

「次世代のまちづくりエコシステム」の実現へ